

特集

神社へ。

新年の初詣や祭などで日本人にとって身近な存在であり、
人生の節目での願掛けでも古くから親しまれてきた神社。
現在、日本には8万以上の神社があるという。
そして、それぞれの神社には、
その場に建っていることの背景があり、理由がある。
神社を知ることは、その地の歴史を知ることであり、
日本人を知ることにもつながる。
いま、あらためて、神社へ——。



「伊勢神宮」の大鳥居。太古の森の
向こうから朝日が昇り、やがて鳥居
を照らす。昔から変わらぬ光景だ。

ここ数年、パワースポットめぐりや、社寺の御朱印集めがブームになっており、2013(平成25)年は「伊勢神宮」(三重)と「出雲大社」(鳥根)の式年遷宮が重なるという記念すべき年でもあることから、神社に注目が集まっています。日本の二大神社と言われる両社が同じ年に遷宮を迎えたのは、過去1500年を振り返ってもわずか3度。そんな歴史的一大イベントへの関心から、実際に足を運ばれた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

きっかけは何であれ、神社に興味や関心を持つことは私はとても意味があると思っています。もしも一過性のブームで終わってしまうのであれば残念。神社は日本古来の文化や歴史、日本人の道徳観など、あらゆるエッセンスを凝縮しているからです。御利益や癒し

を求めるだけでなく、そこから何か少しでも気づきがあればと思うのです。

神社から日本の歴史がみえる

私は現在、インターネット上で神社情報のポータルサイト「神社人」を運営し、各地で講演活動も行なっています。最初に神社の魅力に触れたのは10年近く前。「東国三社」と呼ばれる「鹿島神宮」(茨城)、「香取神宮」(千葉)、「息栖神社」(茨城)を訪ねたときでした。いずれも気持ちの良い古社で、心が洗われるようでした。そのことを周囲に話したところ、思いのほか神社好きが大勢いることに気づいたのです。

調べてみますと、神社の数は全国に8万8,000社以上。主要コンビニチェーンの総店舗数が約5万店ですので、それ

よりもはるかに多い。「明治神宮」(東京)の正月三が日の参拝者数は300万人以上です。それほど身近でありながら、私たちは神社の由緒や祀られている神様のことをほとんど知りません。実際、ガイドラインになるようなものも存在しませんでした。そこで、すべての神社をデータベース化して検索できるようにすれば、多くの方のお役に立てるのではないかと考えたわけです。5年をかけて「神社人」に1万社近くを登録しましたが、それらの情報を俯瞰してみると、さまざまな面白いことに気づきました。まるで点と点を結ぶように各地の神社につながりが見えてきたのです。

たとえば、鹿と聞いて奈良をイメージされる方もいると思いますが、Jリーグの鹿島アントラーズの本拠地である

茨城も鹿とは深い関係があります。鹿島神宮の神使(神様の使い)は鹿です。実は、奈良の「春日大社」に祀られている武甕槌(タケミカヅチ)は、鹿島神宮のタケミカヅチのご分霊で、鹿の背中に御神体を乗せて茨城から奈良へと移動してきたと言われています。さらに、その途上で息絶えてしまった鹿を埋葬したのが、東京都江戸川区にある「鹿骨鹿島神社」だということです。ほかにも、菅原道真公の左遷や坂上田村麻呂の東北遠征といった歴史的出来事が神社を通して垣間見られ、まるで歴史の舞台の縮図を見ているよう。壮大なロマンを感じますし、大変わくわくします。

氏神様を知ること

神社と深いかかわりをもつ「神道」は

長い歴史のある宗教ですが、その特徴ともいえるのが、「教え」がないことです。仏典や聖書などの教典は存在せず、布教活動もありません。神主さんが祝詞をあげるのには私たちの思いを神様に届けるもので、説法は説きません。

そもそも神道は、自然界のあらゆる事物に霊魂が宿るという「アニミズム」の信仰から始まっています。日本には八百万の神々、つまり非常に多くの神様が存在するのはそのためです。神社が森林の中に鎮座していることが多いのも自然信仰の名残。「鎮守の森」という言葉や、神社の「社」を「もり」と読むことからわかるように、神社と森は非常に深い関係にあるのです。

また、神社の由緒を調べると郷土史も見えてきます。例えば、水の神様が祀られている神社はかつて洪水などの

水害にたびたび見舞われた地域だったり、農業にまつわる神様が祀られていれば稲作が盛んな地域だったり。その地で暮らす人々が必要に思っ神様をお招きしたわけです。その意味でも、守り神である氏神様を知って、地元へ愛着を持つことは、とても大事なのではないのでしょうか。

氏神様は、各都道府県の神社庁に問い合わせれば教えてくれます。まずは氏神様をお参りし、それから気になる神社を訪ねてみてはいかがでしょうか。

「神社ツーリズム」のすすめ

なにしろ神社は8万8,000社もあるので、どうめぐるかは何人それぞれです。もしも氏神様が八幡神であれば、八幡様の総本社である大分の「宇佐神宮」に行



とうじょう・ひでとし ●1972(昭和47)年埼玉県生まれ。第40代内閣総理大臣の東條英機は直系の曾祖父にあたる。大手カタログ通販会社に9年間勤務。そのうち4年間を香港で駐在経験し、グローバル・ビジネスの実態と国際教養感覚の理想と現実を実感。その後、2008(平成20)年、日本文化・伝承の源泉となる神社・神道を学ぶ仕組み作りとして、全国神社情報専門ポータルサイト「神社人」を主宰。全国8万8,000社ある神社情報の体系化を目指す。2013年、一般社団法人国際教養振興協会代表理事に就任。日本人の「教養力」の向上と「国際教養人」の創出をビジョンに掲げ、「教養」に関するメディアの構築や、教育事業、国際交流事業を行なっている。著書に『日本人の証明』(学研パブリッシング)、『神社ツーリズム』(扶桑社)、監修に『神社の基本』(エイ出版社)、『大人女子のわがままをかなえるご利益別ピンポイント神社』(マガジンハウス)がある。

●東條英利公式サイト <http://tojo-hidetoshi.jp/>
●一般社団法人国際教養振興協会 <http://www.icpa.jp/>

●インタビュー 東條英利 (一般社団法人国際教養振興協会代表理事/神社ライター)

鳥居をくぐろう。



左上 ● 厳かな雰囲気「鹿島神宮」の境内。ご祭神は建国・武道の神様の武甕槌大神。右に見えるのが拜殿で、鬱蒼とした巨木に覆われた森を奥に進むと、境内の社殿では最も古い奥宮がある。水上鳥居としては日本最大の一の鳥居でも知られる。
左下 ● 仲睦まじかった明治天皇と昭憲皇太后を祀っている「明治神宮」の拜殿と、その手前にある2本のご神木「夫婦楠」。この楠は、1920(大正9)年のご鎮座時に献木され大樹に育ったもので、縁結び、夫婦円満の象徴として親しまれている。
右上 ● 全国に4万社以上あるといわれる、菅原別尊(応神天皇)を祀った八幡様の総本山「宇佐神宮」の宇佐鳥居。奥に見える西大門をくぐると上宮(本殿)がある。725(神亀2)年の創建で、比売大神と応神天皇の御母・神功皇后も祀っている。

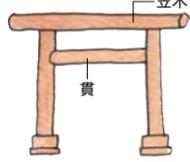
ここに注目! 神社の特徴

イラスト・なかだえり

鳥居の種類

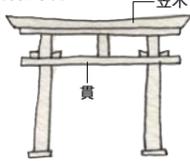
神域と人間が住む俗界を区画するもの(結界)で、神域への入口を示す鳥居。その形(形式)はさまざまなものがあり、神明鳥居と明神鳥居の2つに大きく分けられる。

神明鳥居



比較的シンプルなデザインで、直線的な形状の鳥居。垂直に立つ円柱に、円柱の笠木を載せるのが大きな特徴。貫は柱の中に収まっている。

明神鳥居



全体的に中国をはじめとした海外からの影響を受けたとされる、比較的装飾的なデザインの鳥居。笠木に反りが入り、貫が外に出ているのが特徴。

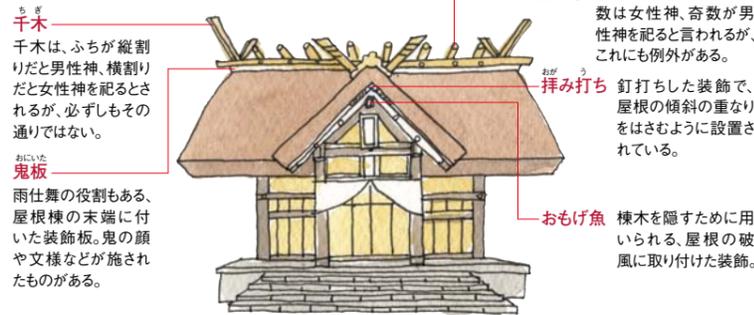
三ツ・三輪鳥居



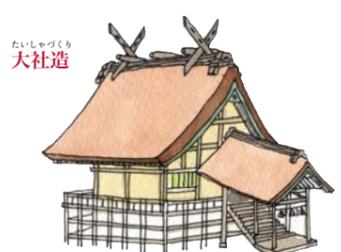
鳥居の両端に小さな脇鳥居を組み合わせた特殊な鳥居。大神神社や三輪神社がこの形。

社殿の種類

神社の建築は基本的に切妻造で、屋根が三角形で2つの斜面を形成する様式。建物の入り口の位置で「神明系」と「大社系」の2つの様式に大別されるが、そこからさまざまに細分化される。この建築様式も神社を訪れる際のひとつの大きな見所といえる。



「神明造」は、伊勢神宮正殿を代表とする建築様式で、高床式倉庫から発展したものと考えられている。屋根の面に対して水平の面を「平」といい、その壁に入口がある「平入り」が大きな特徴。



「大社造」は、出雲大社本殿を代表とする建築様式で、古代の宮殿をもとにしたとされている。屋根の面に対して横の「妻」の面から入る「妻入り」が特徴。

ってみるのも良いでしょう。神社には神様を分霊して別の地に祀る「勧請」のシステムがあるので、全国の神社を「伊勢系」「稲荷系」「天神系」「浅間系」「金毘羅系」などと系列で分類ができ、それぞれに総本社が存在します。また、神話のストーリーをたどってゆかりの地をめぐるのも面白いものです。

もちろん御利益祈願が目的の参拝もあります。出世開運や恋愛成就、夫婦円満、学業成就、金運アップ、禁酒禁煙などの断ち物……御利益があると言われる神社は全国にたくさん。職業でも、鉄鋼や飲食、IT、医療など職種に合う神様が祀られた神社が多く存在します。このような個人の特別な信仰などで崇敬する神社を崇敬神社といい、氏神社と崇敬神社の両方を崇めても問題はありませぬ。

有名な神社を訪ねるだけでなく、自分でテーマを決めてめぐるとも楽しいもの。私自身の2014年のテーマは原点回帰で、日本最古と言われる奈良の

「大神神社」や、神話の里である宮崎の「高千穂神社」などを訪ねました。大神神社は全国の大社系・神明系(三輪神社)の総本社の存在。高千穂は数々の神話の舞台でパワースポットとしても注目されています。機会があればぜひ

ひ行かれてみてはいかがでしょうか。

参拝は“お願い”よりも“誓い”

せっかく鳥居をくぐるなら、きちんと成就するように参拝したいものです。



「大神神社」の拝殿(上)と、大鳥居の後ろにそびえる三輪山(右)。本殿はもたず、拝殿の後ろに広がる三輪山そのものをご神体としている。このため、「大三輪之神」としても知られ、大和国一の宮、二十二社の一社、官幣大社として各時代を通じて崇敬されてきた。崇神天皇7(紀元前91)年創建と伝えられ、主祭神は大物主大神。初めて常設された祭祀施設であることから日本最古の神社といわれる。



神社を訪れる楽しみ、御朱印

神社を訪れる際の楽しみの一つに「御朱印」がある。御朱印とは、神社や寺院で、主に参拝者向けに押印される印章・印影。「記念スタンプ」とは違い、単に印を押すだけでなく、社寺の職員や神職、氏子、僧侶などが社寺名や参拝日などを墨書し、その墨書も含めて「朱印」と呼ばれる。御朱印を納められる「御朱印帳」もあり、比較的名な神社ではオリジナルのものを用意している。御朱印は神社によってデザインが異なるため、御朱印集めは大きな楽しみとなる。



▲御朱印帳は、神社や発行場所によってデザインが異なる。紋様をはじめ、キャラクターの絵を用いたものもあり、見るだけで楽しい。
 ▲御朱印も、カラフルなものから朱一色のシンプルなものまで色も形もさまざま。特定の期間は朱印の形が違ったり、内容が変わることもある(御朱印を受ける際は初穂料を納めるが、その金額も神社によって異なる)。

いま、御朱印がブーム!

1990年代に話題になった、靈力が強い場所を訪れる「パワースポットめぐり」は現在はずっと定着したようだが、近年そのパワースポットである神社を訪れ、「スタンプラリー」の感覚で御朱印を集める「御朱印ガール」が増えている。ある神社ではここ数年で参拝客が2~3割のペースで増え続け、とくに御朱印を求める女性が目立っているという。

そのためのマナーですが、私たちが神社で願掛けをするのは略式です。正式には神職の方が祝詞を奏上するので、マナーはそれにならうのが良いでしょう。一般的には二拝二拍手一拝。二拍手の後の願掛けの仕方にポイントが3

つあります。まず最初に自分の住所と名前を伝える。自己紹介のようなもので、正式参拝でも必ず唱えられます。次に「今日このような日を迎えられたことに感謝申し上げます」といった感謝の気持ちを述べる。3つ目に“お願い”

ではなく「私は〇〇します」という“誓い”を立てる。つまり他力本願ではなく、大切なのは自らの強い意志。決意があればその瞬間から意識も変わり、努力へとつながるわけです。

そして、願いが成就した折には感謝の気持ちでおかげ参りをし、その時に新たな決意を立てます。そんな良いサイクルを生んでいくことが大事ではないでしょうか。決して難しいとか敷居が高いことではなく、要は神社でも人と同じように接しようということ。神様も、どこの誰かもわからない相手から「〇〇してください」と一方的に頼まれても、気持ちよく引き受けてくださるかどうかが(笑)。

いずれにしても、案外、日本人ほど日本のことを知らないもの。日本の魅力や成り立ちを再確認するためにも、神社めぐりを楽しまれることをお勧めします。



数々の日本神話の舞台になっている高千穂の森にたずむ「高千穂神社」。約1900年前の垂仁天皇時代に創建された高千穂郷八十八社の総社で、主祭神は高千穂皇神と十社大明神。高千穂皇神は、日本神話の日向三代とされる皇祖神とその配偶神の総称で、十社大明神は神武天皇の皇兄・三毛入野命とその妻子神9柱。境内には垂仁天皇の勅命によって用いられた古石の「鎮石」や、根元が1つの2本の大杉「夫婦杉」がある。写真/東條英利



伊勢へ。

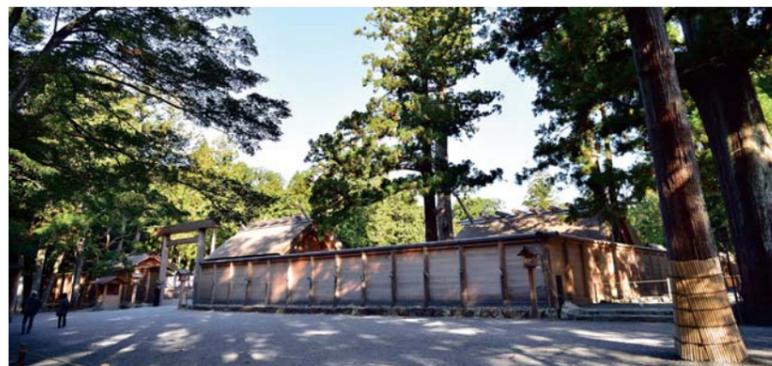
日本人の心のふる里へ。

「外宮」の板垣越しに、遷宮を終えて間もない正宮の屋根が見える。衣食住の産業の守り神トヨウケノオオミカミが祀られている。

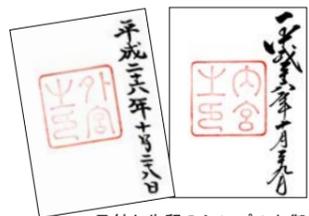


上／「外宮」正宮への参拝は外玉垣南御門から。二拝二拍手一拝で行なう。
下左／古殿地。2013年秋の遷宮前まで正宮はここにあった。次の遷宮で正宮は再びこちらに遷る。
下右／神様にお供える食事を調理する忌火屋殿の屋根から煙が上がっている。食事はここから御饌殿へと運ばれる。

江戸時代、「一生に一度はお伊勢参り」と言われ、庶民の憧れだった「伊勢神宮」参拝への旅。2013年には式年遷宮が執り行なわれ、参拝者数は1,420万人を記録した。日本人にとって、お伊勢参りは今も変わらず特別なものである。参道の玉砂利を踏みしめて歩き、新たに造り替えられた社殿の前で手を合わせると、気持ちまで澄んでいくよう。そんな日本人の心のふる里「伊勢神宮」を、ゆっくりとめぐった。



「外宮」の板垣御門。木々に囲まれ木漏れ日も美しい。正宮は日本古来の建築様式である唯一神明造。



日付と朱印のシンプルな御朱印。左が「外宮」、右が「内宮」。



「内宮」の正宮を後ろから見たところ。屋根の千木や堅魚木に施された金色の金具が朝日を受けて輝いている。

古くから人々に「お伊勢さん」と呼ばれ、親しまれてきた「伊勢神宮」。2013(平成25)年秋に式年遷宮が執り行なわれ、新しくなった社殿が今、深い緑の森の中で荘厳な輝きを見せている。「伊勢神宮」は日本人の総氏神として崇敬を集めてきたが、正式名称は「神宮」。全国に神宮と名の付く神社は多いが、やはり別格で、私たちは便宜上、地名を付けて伊勢神宮と呼んでいるに過ぎない。その「伊勢神宮」に祀られているのは、日本神話の最高神である天照大神と、そのアマテラスの食事を司る豊受大神。アマテラスは「内宮」に、トヨウケノオオミカミは「外宮」にそれぞれ祀られ、その両宮を中心に別宮や摂社、末社、所管社を合わせた計125の社殿の総称が「伊勢神宮」なのである。規模の大きさからも日本を代表する神社であることがよくわかる。そして、参拝は外宮から内宮の順にするのが習わしだ。

食を司る神様の「外宮」へ

「外宮」の正式名称は「豊受大神宮」。

入り口手前の案内板によると、トヨウケノオオミカミはお米を始めとした衣食住の恵みを与えてくださる産業の守り神で、アマテラスの食事を司る神様として1500年前にこの地に鎮座された。朝8時。「外宮」への入り口である火除橋を渡る人の姿もまだまばら。橋を渡りきるとすぐ左に、お清めをする手水舎がある。ひしゃく一杯の水をすくい、左手、右手の順で洗って、左の手のひらにためた水で口をすすぎ、最後に左手を洗い流す。冷たい水に気持ち

引き締まる。参道には玉砂利が敷き詰められている。普段、硬いアスファルトに慣れているせいか、沈み込む足感覚とザクザクという音に、ふと「一步、一步」という当たり前のことを意識する。両側は木々に覆われ、上の方から聞こえてくるのは鳥たちのさえずり。森の位置しながらまるで別世界のような清々しさだ。鳥居を二つくぐると、右側に神楽殿



左／「外宮」の入り口「日除橋」から第一鳥居をのぞむ。右上／「外宮」の摂社や末社、所管社の祀りが行なわれる「九丈殿」。右下／「外宮」の「神楽殿」。

が見えてくる。祈祷のお神楽などが行なわれる御殿で、「豊受大神宮」のお守りやお札、御朱印も受けることができる。その先はいよいよ正宮。鳥居をくぐると背筋が自然に伸び、気持ちもしゃんとする。御門の前でゆっくりと二拝二拍手一拝。神様がいらっしゃるのにはさらに奥の御正殿だ。一般参拝者はそこに近づくことはできないが、垣の向こうに眺めることができる。空に向かって突き出た千木や、横に並ぶ堅魚木などに施された金具が、朝日を受けて神々しく輝いている。

御正殿の奥にあるのが御饌殿。ここで毎日朝夕の二度、アマテラスに御饌(食事)をお供えする日別朝夕大御饌祭が行なわれる。このお祭りは豊受大神が鎮座した1500年前から今日まで、一日も欠かすことなく続けられている。食材は自給自足で、調理に使う火も、木と木をこすり合わせる太古からの火起こしの道具を使い、神職が毎朝起こしている。それが現代にいたるまで粛々と続いているのだ。

「外宮」にはトヨウケノオオミカミの



石段を上った山の頂にある「多賀宮」は、別名「高宮」。トヨウケノオオミカミの荒御魂を祀る別宮で、人気も高い。



「外宮」の地主の神「土宮」。「外宮」創建前はこの地域の鎮守の神だった。



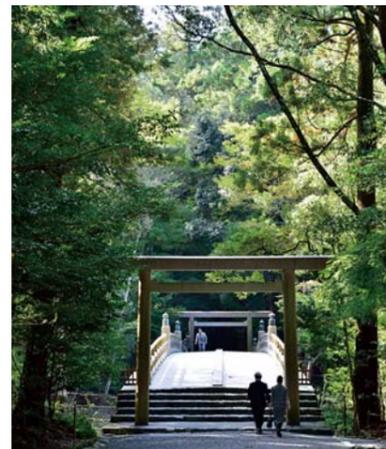
蒙古襲来の際に神風を吹かせて日本を守ったとされる神を祀った「風宮」。



石段を上った先がアマテラスが祀られた正宮。早朝は人も少なく心ゆくまでお参りできる。



遷宮を終えたばかりの「荒祭宮」。アマテラスの荒御魂を祀る。以前は左の石段を上ったところにあったが右へ遷られた。



「風日祈宮」は風の神様を祀る別宮。「外宮」の「風宮」と同じく鎌倉時代の蒙古襲来で神風を吹かせたとされる。五十鈴川にかかる風日祈橋。この橋を渡ると「風日祈宮」。



「外宮」近くにある別宮「月夜見夜」。2015年2月の遷宮に備え、建造途中の新しい社は白いカバーで覆われている。

あらみたま 荒御魂をお祀りした「たかのみや多賀宮」、土地の守り神をお祀りする「つちのみや土宮」、風を司る神様をお祀りする「かぜのみや風宮」の別宮もある。これらは2014年秋から翌年3月にかけて順次、遷宮が執り行なわれ、土宮は1月、風宮は3月に遷御となる。新しい社は白いカバーで覆われて中の様子は見えないが、その姿を想像しながら、遷宮前の社とあわせて見て歩くのも楽しい。さらに外宮の北口御門から神路通を300mほど行ったところに鎮座するのが「つきよみのみや月夜見宮」。アマテラスの弟神を祀り、河川の守り神で農耕と深い関わりを持つ社である。

天照大神を祀る「内宮」

「内宮」は、「外宮」から5kmほど離れた神路山と島路山の麓、五十鈴川のほとりにある。正式名称は「こうたいじんぐう皇大神宮」。アマテラスがこの地に鎮座されたのは今から2000年前という。

その「内宮」に参拝したのは、まだ夜明け前の6時。薄明かりの中ぼんやりと見えた鳥居は、近づくほどにその大きさを実感する。2014年10月に造り替えられたばかりの真新しさで、もともと「内宮」と「外宮」の正宮の棟持柱だった御用材を、遷宮後に再利用したの

だそう。棟持柱として20年を経て、今度は鳥居となって私たちを迎え入れてくれるわけである。そして、五十鈴川にかかる宇治橋は俗世と神域とを結ぶ橋。日中は込み合うこの橋も、まだ渡る人の姿はほとんどない。一の鳥居をくぐり、五十鈴川の御手洗場へ。昔の

人になって、この御手洗場の清流に手を浸し、心身を清め参拝へと向かう。参道をさらに進むと、樹齢700年の木々が鬱蒼と生い茂り、そこはモノトーンの世界。夜明け前で鳥の鳴き声も聞こえず、木の葉が風に揺れる音もない。聞こえてくるのは玉砂利を踏みしめる自分の足音だけで、立ち止まるとたんに静寂に包まれる。まるで太古の世界に吸い込まれていくような不思議な錯覚に襲われた。

30段ほどの石段を上がると、いよいよ正宮だ。「外宮」と同じように白い絹の布がかけられた御門の前で二拝二拍手一拝。「伊勢神宮」は個人的な願い事ではなく、広く世の中の繁栄や幸福、平和をお祈りするものと言われている。お伊勢参りは「心の洗濯」と言われるが、参道を歩いて戻るときに、確かに心が洗われるような感覚になるのだ。

正宮から「あらかまつりのみや荒祭宮」に向かう途中には、収穫した稲を納める御稲倉や、神宝類を納める外幣殿の高床式神殿を問



生い茂る木々の合間から見える正宮の屋根。天に高く聳える千木に威風を感じる。

近に見ることが出来る。「荒祭宮」はアマテラスの荒御魂を祀る内宮の第一別宮。遷宮を終えたばかりで、新たな生命の息吹に満ちていた。

宇治橋を小さくしたような「かざひのみみや風日祈宮」橋を渡った先には別宮の「かざひのみみや風日祈宮」。「外宮」の「かぜのみや風宮」と同じ風の神様が祀られ、自然林に囲まれひっそりと佇んでいる。

ゆっくり参拝を終えて宇治橋へ戻ると、昇ったばかりの朝日が山の上を照らし始め、モノクロの世界を色鮮やかな紅葉へと変えていった。光は徐々に麓まで広がり、やがて大鳥居を照らす。



「内宮」の宇治橋前の大鳥居。間もなく陽が昇る。



参拝前に御手洗場で心身を清める。五十鈴川の澄んだ水と森の清浄な空気が穢れを洗い落してくれるよう。



五十鈴川にかかる宇治橋。神聖な世界への架け橋。



遷宮を間近に控えた「瀧原宮」。神様が新しいお宮に遷るための雨儀廊下がしつらえられていた。



「内宮」から1.8km離れた森に鎮座する「月讀宮」。向かって右から「月讀荒御霊宮」「月讀宮」「伊佐奈岐宮」「伊佐奈宮」。「月讀宮」はアマテラスの弟神のツキヨミノミコトを祀っている。

真新しい檜の大鳥居が黄金色に輝き、太陽の女神にも例えられるアマテラスが舞い降りたかのような幻想的なひとときであった。

魅力的な別宮も参拝

10時を過ぎると、学生や観光客の一大団が列をなし、駐車場には観光バスが続々とやってくる。先ほどまでの早朝の静けさが嘘のようだ。ツアーは「内宮」の正宮を最短距離で参拝して終わりというケースも多いと聞く。しかし、せっかくなら「内宮」と「外宮」の両方をゆっくりとめぐりたい。森の清浄な空気の中、木漏れ日を浴び、参道の玉砂利を踏みしめて歩くだけでも心が穏やかになっていくのを感じる。

また、別宮や摂社は伊勢をはじめ松阪、鳥羽、志摩など広域にわたって存在する。宮川を40kmさかのぼったところにある「瀧原宮」は、アマテラスの御

霊を祀った別宮。敷地内の造りが「内宮」とよく似ていて、自然林が鬱蒼と茂る山間に佇み、参道沿いには溪谷をなして流れる宮川支流の大内山川。「瀧原」の名前は、大小たくさんの滝があることから付けられたそうで、絶え間なく聞こえる水音がなんとも心地よい。川へと降りる苔むした石段も風情たっぷりだ。その「瀧原宮」とともに「遙宮」と呼ばれ、遠く離れた志摩に鎮座する「伊雑宮」は、唯一神田を持つ別宮。御田植式は「磯部の御神田」と呼ばれ、国の重要無形民俗文化財である。



遷宮間もない「月讀宮」。屋根の上に平行に6本並ぶ堅魚木が金色に輝いている。



上/志摩にある「伊雑宮」。アマテラスへ捧げるお供え物を採る所として、アマテラスの御霊が祀られた別宮。下/「伊雑宮」の横にある「磯部の御神田」。毎年6月に御田植式が行なわれる。



「内宮」を創建したヤマトヒメを祀った「倭姫宮」。ヤマトヒメは第11代垂仁天皇の皇女。

「内宮」と「外宮」を結ぶ約5kmの御幸道路の中ほどにある「月讀宮」は、アマテラスの弟神・月讀尊を祀った別宮で、境内に同じ社殿が4つ並んでいるのが特徴。「月讀宮」、月讀尊の荒御霊を祀った「月讀荒御霊宮」、父神である「伊佐奈岐宮」、母神である「伊佐奈弥宮」の順番で参拝するのが良いとされる。「倭姫宮」は、「内宮」を伊勢の地に創建された倭姫命を祀った別宮。創建は大正時代と新しく、自然林に囲まれた参道を歩くのも気持ちが良い。別宮はそれぞれに少しずつ趣が異なるので、時間の許す限り訪ねてはいかがだろう。

あらゆるものが変化していく世の中で、いつの時代も変わらぬ姿で迎えてくれる「伊勢神宮」。そこに身を置いて感じるのは、魂のよりどころのような安心感と神聖さ。それが「日本人の心のふる里」と言われるゆえんなのかもしれない。

出雲へ。

八百万の神々が集う地へ。

“神話のふる里”と言われる出雲。
神話の舞台になっている場所や、
歴史を古代に遡る神社が数多く存在する。
なかでも「出雲大社」は、年に一度、全国の神々が集まる聖なる地。
「伊勢神宮」の天照大神が天の神の最高神であるのに対し、
地上の神を代表する大国主大神が祀られているのが
ここ「出雲大社」である。
「出雲大社」をはじめ、ゆかりある神社を訪ね、
良縁を祈念した。

松の参道から眺める「出雲大社」本殿。

「出雲大社」の正式な名称は「いづものおおやしろ」。旧暦の10月、八百万の神々が集結して人々の縁を話し合うことで知られる。そのためここ出雲では、10月を神無月ではなく神在月と呼ぶ。

昔から良縁を求め多くの人々が参拝に訪れる「出雲大社」だが、平成の式年遷宮を迎えた2013年は、前年の2倍の800万人を超え過去最高を記録した。「出雲大社」の遷宮は60年に1度。社殿や装飾品などすべてを清らかに作り改めることで神様の勢いが一層高まり、参拝者はそのご利益をいただくのだという。

その「出雲大社」に祀られているのは大国主大神。「因幡の白兔」神話で兎を助けた、あの心優しい大黒様のことだ。日本の国土を造ったオオクニヌシが、天の神々に迫られて国を譲り渡す代わりとして、自分が住まう大きな宮殿を求め、それが「出雲大社」とされている。

平成の大遷宮、出雲大社

「出雲大社」の表玄関となるのが、大鳥居がある勢溜。かつてここには芝居小屋などがあって人が大勢集まったことから、人の勢いが集まる場所として



二の鳥居のはるか向こうに一の鳥居（大鳥居）が見える。出雲大社には、鉄筋コンクリート製、木製、鉄製、銅製の4つの鳥居がある。



二の鳥居をくぐってすぐ右にある祓社。知らぬ間に犯した心身の汚れを祓い清めてくれる場所で、ここで参拝して拝殿へ向かう。

名づけられたそうだ。南北一直線に敷かれた参道には4つの鳥居が並んでいる。この勢溜の大鳥居は木でできた二の鳥居で、振り返ると石でできた一の鳥居が見える。

訪れたのは冬の初めの早朝。雲ひとつない澄んだ青空に大鳥居が聳え立ち、八雲山の麓の神域へと迎え入れてくれた。大鳥居をくぐるとすぐに、末社の「祓社」。まずはここで心身の汚れを祓い清めて本殿へと向かう。神社では珍しい下り参道を下り、八雲山の清流が流れる祓の橋を渡ると、今度は鉄でできた三の鳥居。掃き清められた参道を歩き、鳥居をひとつくぐるとに清々しい気持ちになっていく。

三の鳥居から先は松の参道。ここか

ら玉砂利が敷かれ、両側に樹齢400年を超える松が並んで木陰を作り、いっそう厳粛な雰囲気だ。その松のアーチの先、御本殿の屋根がわずかに見え、気持ちが一気に引き締まる。参道の脇には芝生の広場もあり、朝露に濡れた芝が陽の光を受けてキラキラと輝き、心なしか暖かさを感じる。

参道をさらに進むと、左右に大きな2つの像。右側は「ムスビの御神像」で、オオクニヌシが“結びの神”になった神話の一場面を再現したもの。左側の「御慈愛の御神像」は「因幡の白兔」の神話をモチーフにしたものだ。オオクニヌシが背負っている袋には私たちの苦難や悩みが入っていて、代わりに背負ってくださっているのだという。主



左/神話「因幡の白兔」のオオクニヌシと兎を象った「御慈愛の御神像」。右/オオクニヌシが「結びの神」になったという神話の一場面を再現した「ムスビの御神像」。

祭神をこういう形で参拝前に見られるというのも面白い。

手水舎で手と口を清め、銅でできた最後の四の鳥居をくぐると、目の前に総檜造りの拝殿。オオクニヌシが鎮座しているのは、さらにその奥の御本殿で、一般の参拝は八足門の前から。「出雲大社」は縁結びの神様で知られるが、男女の縁に限らず、人と人、仕事、五穀豊穡など神羅万象のご縁をさすそう。そして、ここでは一般的な神社と違い、拍手を4回打つ。姿勢をただし、良縁を祈念して二拝四拍手一拝。

御本殿は「大社造」と呼ばれる日本最古の神社建築様式で、高さ約24m。垣沿いにその上部を見ることができ、式年遷宮で葺き替えられた檜皮葺きの大



立派な注連縄がかけられた拝殿は、1959(昭和34)年に総檜造りで再建された。この奥にある本殿前の八足門からも参拝はできる。

屋根は特に見事。葺師が横一列に並んで70万枚もの檜皮を葺いていくそうだが、式年遷宮は60年に一度。経験のある職人がいないため、作業は大変らしい。その大屋根から交差して突き出した千木や勝男木は神社建築の象徴。それらを覆う銅板に施された「ちゃん塗り」も日本の伝統的な塗装で、こちらは化学分析などに基づいて130年ぶりに再現されたという。

御本殿の後ろにある素戔社そがのやしろは改修中で参拝がかなわなかったが、オオクニヌシの父神で、ヤマタノオロチ退治

で有名な須佐之男命すさきののおみことを祀った社である。

御本殿をぐるりと回ったら、西側の神楽殿へ。有名な大注連縄はこの神楽殿にかかっている。長さ13m、重さ5トン。日本最大というだけあって近くで見るとその迫力に圧倒される。

御守所で御朱印をいただき、平成の大遷宮の記念のお守りを受けた。「出雲大社」の式年遷宮には「始まりに立ち返る」という意味があるそうで、お守りには「蘇」の文字。新たな生命の息吹をまとめて美しく聳える本殿に、自



平成の大遷宮で60年ぶりに葺き替えられた本殿の屋根。大社造りと呼ばれる日本最古の神社建築様式。



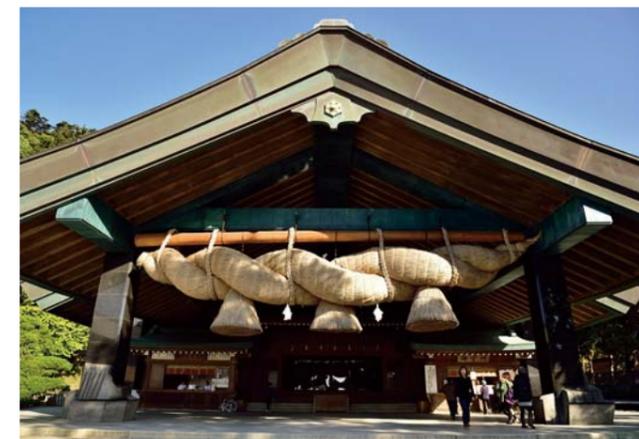
本殿の八足門の前から参拝。手前の朱色の3つの円は、古代神殿の宇豆柱が発掘された跡。



本殿脇にある十九社。旧暦10月に全国から八百万の神様が集まり、ここに宿泊される。



本殿の屋根を真後ろから見たところ。建築や塗りなど職人たちの技の結集が見て取れる。



出雲大社の御朱印。

祭典や祈願、結婚式などが行なわれる神楽殿。日本一の巨大注連縄が目玉。中には270畳敷きの大広間があり、1981年に造営された。



旧暦10月に全国の神様が集まってくるという稲佐の浜。波打ち際の弁天島には豊玉毘古命が祀られている。

分も初心に戻る思いがした。

「出雲大社」の平成の大遷宮は、摂社や末社、附属建物の改修なども含め、2016年3月まで続く。

出雲の神社をめぐる

旧暦の10月、「出雲大社」には全国の神様が集結するが、その神々が降り立つとされるのが、「出雲大社」から西に1kmほど行ったところにある稲佐の浜。「国譲り」神話の舞台でもあり、神在月には神事も催される神聖な海岸だ。そして、集まった神様たちが7日間にわたって会議を開くのが、海岸近くの住宅地にひっそりと佇む摂社の「上宮」。案内の看板によると「この上宮に於いて生きとし生けるものの幸福と社会の繁栄の『縁』を結ばれる神議が行なわれる」とある。そのすぐそばにある「下宮」には、伊勢の神様の天照大神が祀られていた。

島根半島の西端にある「日御碕神社」は出雲の祖神・素戔嗚尊が鎮座し、日本の夜を守っている。権現造の神社は徳川家光の命により造営されたもので、森の緑の中に朱塗りの社殿がひととき映えている。

海岸から内陸に向かって車をしばらく走らせると、スサノオを祀る「須佐神社」。さらに行くと、スサノオと稲田

ひめのみこと
姫命の夫婦神とその御子神を祀った「須我神社」がある。「須我神社」は日本で初めて建てられた宮殿で「日本初之宮」と称され、和歌発祥の地とされている。

「熊野大社」は、火の発祥の神社として知られている。朱塗りの橋を渡って鳥居をくぐると、正面の門や拝殿にかかる立派な注連縄が目を引く。出雲大社の祭事で使われる火はここで起こしたものだそう。車で20分ほど走ると「八重垣神社」がある。ヤマタノオロチを退治したスサノオが妻と新居を構え



日本の夜を守るとされる「日御碕神社」。下の宮「日沈宮」と上の宮「神の宮」の2社からなる。



「須我神社」は縁結びや子授け、安産にご利益があるとされる。山の腹にある夫婦岩も有名。



稲佐の浜に近い出雲大社の摂社「下宮」(上)と「上宮」(下)。「上宮」では、全国から八百万の神々を迎える出雲大社の神迎神事が2014年12月1日(旧暦10月10日)の夜、厳かに営まれた。「上宮」での神迎神事は21年ぶり。

た地で、出雲における縁結びの本宮とされている。境内奥の森の中にある「鏡の池」では縁結びの占いができ、若い女性たちに人気のスポットになっている。

山間の石段を上がった先にある「神魂神社」は、出雲国造の大祖・天穗日命を祀っていて、本殿は国宝にも指定されている日本最古の大社造り。その佇まいは重厚にして素朴で、境内も余計なものをすべてそぎ落としたようなシンプルさ。隅々まで手入れが行き届き、不思議と落ち着く神社で、しばし時間



山間の静かな田園風景の中に建つ「須佐神社」。ヤマタノオロチを退治したスサノオを祀っている。



「熊野大社」の拝殿。日本で最初に火を切り出したとされ、「日本火出初之社」とも呼ばれる。



上/スサノオとイナダヒメの縁結びの夫婦神を祀った「八重垣神社」。
下/「八重垣神社」後方の奥の院にある「鏡の池」では、多くの人が縁結びの吉凶を占う。硬貨を占い用紙にのせて池に浮かべ、早く沈めば良縁の訪れが早いという。

が経つのを忘れてしまった。

「佐太神社」は同じく大社造の古社で、本殿の三社並立は建築史上、非常に珍しいとのこと。国的重要文化財。しかし、訪ねた時は中央の社が改修中だったため、残念ながらその豪壮な姿を目にすることはできなかった。

島根半島の先端近く、三保湾の高台に鎮座する「美保神社」は、全国にある「えびす社」3,385社の総本社。さまざまな神事やお祭りが行なわれ、五穀豊稔、夫婦和合、安産・子孫繁栄の守り神として崇敬が篤い。



国的重要文化財に指定されている「佐太神社」。3殿並ぶ本殿の中央は改修中だった。



「美保神社」の拝殿は船庫を模した独特な造り。壁がなく梁がむき出しで、天井がないのが特徴。



上/明治時代に小泉八雲も訪れた「神魂神社」。本殿は現存する最古の大社造で国宝。左/「神魂神社」は鳥居をくぐり、苔むした石段を上った先に社殿があり風情満点。境内には神事を執り行なう「ひもろぎ」も。神聖な雰囲気満ちている。



古事記に登場する「黄泉比良坂」。あの世と現世の境目とされる。



黄泉の国と縁の深い神社として知られる「損夜神社」。拝殿の中央に鏡が置かれ、本殿にはイザナミが祀られている。

黄泉の国の入り口へも足を伸ばした。もちろん神話の世界の話だ。松江市東出雲にある「黄泉比良坂」は、あの世とこの世の境とされる坂道。伊邪那岐命が大きな岩で道を塞ぎ、変わり果てた姿の妻・伊邪那美命と永遠の別れをした場所である。ミステリースポットとしても注目されているが、鬱蒼と茂る木々や巨岩はどこか寂しさが漂う。そして、妻のイザナミを祀った神社が「損夜神社」だ。大きな注連縄がかけられた拝殿の中央には鏡が据えられ、鏡に映る自分を見て参拝するという独特な造り。両側にある石段を上れば大社造りの本殿に出ることもできる。一切の無駄を省いたその凛とした佇まいに、身が引き締まる。日本書紀にも記されている古社である。

ここ出雲では、神話を裏付けるような数々の銅剣や銅鐸も出土している。2000年には「出雲大社」の境内から巨



左/島根県立古代出雲歴史博物館に常設展示されている、古代出雲大社本殿を再現した10分の1の模型。右/「平成の大遷宮」の奉祝事業として再現された、古代出雲大社高層神殿を支えた三本柱の柱立て。

大な3本一組の柱根も発見。それが本殿を支えた宇豆柱であり、「出雲大社」は巨大神殿であったことが実証された。あのオオクニヌシが国を譲る代わりに得た巨大神殿である。ロマンを感じずにはられない。今も厚い崇敬を集める出雲の旅は、人と人、過去と現在、さまざまなものをつなげてくれる魅力に満ちている。

諸国の「一の宮」。

平安中期から鎌倉初期にかけて確立された社格制度「一の宮」。江戸期以前の令制国で、由緒ある神社や崇敬を集める神社が勢力をもつことで序列が生じ、その首位が「一の宮」とされた。

明治期以降は1871(明治4)年の太政官布告によって神社規定などが制定され、神祇官所属の神社(制定時97社)は官幣大社・中社・小社、地方官所属は国幣大社・中社・小社に分けられた。いずれも由緒の深い神社であり、近くの一の宮へ参拝してはいかがだろう。



16 富士山本宮浅間神社(静岡県富士宮市)



20 厳島神社(広島県廿日市市)



29 諏訪大社(長野県諏訪市)



5 住吉大社(大阪府住吉区)

畿内

- 1 大和国 **大神神社**
官幣大社 奈良県桜井市三輪1422
- 2 山城国 **賀茂別雷神社(上賀茂神社)**
官幣大社 京都市北区上賀茂本山339
- 3 山城国 **賀茂御祖神社(下鴨神社)**
官幣大社 京都市左京区下鴨泉川町59
- 4 河内国 **枚岡神社**
官幣大社 大阪府東大阪市出雲井町7-16
- 5 摂津国 **住吉大社**
官幣大社 大阪市住吉区住吉2-9-89
- 6 和泉国 **大鳥大社**
官幣大社 大阪府堺市西区鳳北町1-1-2

東海道

- 7 常陸国 **鹿島神宮**
官幣大社 茨城県鹿嶋市宮中2306-1
- 8 下総国 **香取神宮**
官幣大社 千葉県香取市香取1697
- 9 上総国 **玉前神社**
国幣中社 千葉県長生郡一宮町一宮3048
- 10 安房国 **安房神社**
官幣大社 千葉県館山市大神宮589
- 11 武蔵国 **氷川神社**
官幣大社 さいたま市大宮区高鼻町1-407
- 12 相模国 **寒川神社**
国幣中社 神奈川県高座郡寒川町宮山3916
- 13 甲斐国 **浅間神社**
国幣中社 山梨県笛吹市一宮町一ノ宮1684
- 14 伊豆国 **三嶋大社**
官幣大社 静岡県三島市大宮町2-1-5
- 15 駿河国 **富士山本宮浅間大社**
官幣大社 静岡県富士宮市宮町1-1
- 16 遠江国 **小國神社**
国幣小社 静岡県周智郡森町一宮3956-1
- 17 三河国 **砥鹿神社**
国幣小社 愛知県豊川市一宮町西垣内2
- 18 尾張国 **真清田神社**
国幣中社 愛知県一宮市真清田1-2-1
- 19 伊勢国 **椿大神社**
三重県鈴鹿市山本町1871
- 20 伊賀国 **敢國神社**
国幣中社 三重県伊賀市一之宮877
- 21 志摩国 **伊雑宮**
三重県志摩市磯部町上之郷

東山道

- 22 出羽国 **鳥海山万物忌神社**
国幣中社 山形県飽海郡遊佐町吹浦布倉1
- 23 陸奥国 **鹽竈神社**
国幣中社 宮城県塩竈市一森山1-1
- 24 下野国 **日光二荒山神社**
国幣中社 栃木県日光市市内2307
- 25 上野国 **貫前神社**
国幣中社 群馬県岡田市一ノ宮1535
- 26 信濃国 **諏訪大社(上社・下社)**
官幣大社 長野県諏訪市中洲宮山1・諏訪郡下諏訪町5828
- 27 飛騨国 **水無神社**
国幣小社 岐阜県高山市一之宮町5323
- 28 美濃国 **南宮大社**
国幣大社 岐阜県不破郡垂井町宮代1734-1
- 29 近江国 **建部大社**
官幣大社 滋賀県大津市神領1-16-1

北陸道

- 30 越後国 **彌彦神社**
国幣中社 新潟県西蒲原郡弥彦村弥彦2898
- 31 佐渡国 **度津神社**
国幣小社 新潟県佐渡市羽茂飯岡550-4
- 32 越中国 **高瀬神社**
国幣小社 富山県南砺市高瀬291
- 33 加賀国 **白山比咩神社**
国幣中社 石川県白山市三宮町2-105-1
- 34 能登国 **氣多大社**
国幣大社 石川県羽咋市寺家町ク-1
- 35 越前国 **氣比神宮**
官幣大社 福井県敦賀市曙町11-68
- 36 若狭国 **若狭彦神社**
国幣中社 福井県小浜市龍前28-7



55 作原八幡宮(大分市)



59 住吉神社(福岡市)

山陰道

- 37 丹波国 **出雲大神宮**
国幣中社 京都府亀岡市千歳町千歳出雲
- 38 丹後国 **元伊勢・籠神社**
国幣中社 京都府宮津市大垣430
- 39 但馬国 **出石神社**
国幣中社 兵庫県豊岡市出石町宮内99
- 40 因幡国 **宇倍神社**
国幣中社 鳥取市国府町宮下651
- 41 伯耆国 **倭文神社**
国幣小社 鳥取県東伯郡湯梨浜町宮内754
- 42 出雲国 **出雲大社**
官幣大社 島根県出雲市大社町杵築東195
- 43 石見国 **物部神社**
国幣小社 島根県大田市川合町川合1545
- 44 隠岐国 **水若酢神社**
国幣中社 島根県隠岐郡隠岐の島町郡723



40 宇倍神社(鳥取市)



50 宇佐神宮(大分県宇佐市)



20 彌彦神社(新潟県西蒲原郡弥彦村)



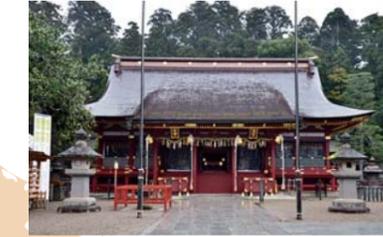
60 高良大社(福岡県久留米市)

山陽道

- 45 播磨国 **伊和神社**
国幣中社 兵庫県宍粟市一宮町須行名407
- 46 備前国 **吉備津彦神社**
国幣小社 岡山市北区一宮1043
- 47 備中国 **吉備津神社**
官幣中社 岡山市北区吉備津931
- 48 美作国 **中山神社**
国幣中社 岡山県津山市一宮695
- 49 備後国 **吉備津神社**
国幣小社 広島県福山市新市町宮内400
- 50 安芸国 **厳島神社**
官幣中社 広島県廿日市市宮島町1-1
- 51 周防国 **玉祖神社**
国幣中社 山口県防府市大崎1690
- 52 長門国 **住吉神社**
官幣中社 山口県下関市一の宮住吉1-11-1

南海道

- 53 紀伊国 **日前神宮・國懸神宮**
官幣大社 和歌山市秋月365
- 54 淡路国 **伊弉諾神宮**
官幣大社 兵庫県淡路市多賀740
- 55 讃岐国 **田村神社**
国幣中社 香川県高松市一宮町286
- 56 阿波国 **大麻比古神社**
国幣中社 徳島県鳴門市大麻町板東字広塚13
- 57 伊予国 **大山祇神社**
国幣大社 愛媛県今治市大三島町宮浦3327
- 58 土佐国 **土佐神社**
国幣中社 高知市一宮しなね2-16-1



28 鹽竈神社(宮城県塩竈市)



14 三嶋大社(静岡県三島市)



19 椿大神社(三重県鈴鹿市)



17 砥鹿神社(愛知県豊川市)



24 日光二荒山神社(栃木県日光市)



11 氷川神社(さいたま市)



10 安房神社(千葉県館山市)

西海道

- 59 筑前国 **住吉神社**
官幣小社 福岡市博多区住吉3-1-51
- 60 筑後国 **高良大社**
国幣大社 福岡県久留米市御井町1
- 61 肥前国 **興止日女神社**
佐賀市大和町川上1-1
- 62 豊前国 **天手長男神社**
長崎県杵岐市郷ノ浦町田中触730
- 63 対馬国 **海神社**
国幣中社 長崎県対馬市峰町木坂247
- 64 豊前国 **宇佐神宮**
官幣大社 大分県宇佐市南宇佐2859
- 65 豊後国 **杵原八幡宮**
国幣小社 大分市八幡987
- 66 肥後国 **阿蘇神社**
官幣大社 熊本県阿蘇市一の宮町宮地3083-1
- 67 日向国 **都農神社**
国幣小社 宮崎県児湯郡都農町川北13294
- 68 大隅国 **鹿兒島神宮**
官幣大社 鹿児島県霧島市隼人町内2496
- 69 薩摩国 **枚聞神社**
国幣小社 鹿児島県指宿市開聞十町1366

新一の宮

平安時代から中世にかけて制定された「一の宮」のほかに、近世以後に新たに発展した神社や明治維新後に「新一の宮」として確立した神社も全国で6社ある。そのうちの北海道と沖縄の神社を紹介する。

- 70 蝦夷国 **北海道神宮**
官幣大社 札幌市中央区宮ヶ丘474
- 71 琉球国 **波上宮**
官幣小社 沖縄県那覇市若狭1-25-11



70 北海道神宮(札幌市)

※過去に「一の宮」とされた神社は約100社あり、1つの国に2社もしくは2社以上存在する場合もあるが、ここでは歴史背景などを加味し、代表とされている1社を掲載した。

彩り華やぐ 神社を訪ねる。

その年に初めて行なわれる行事、初詣。毎年、神社は多くの参拝客で賑わいをみせる。人々はそこで、1年の感謝を捧げ、今年1年の無事と平安を祈る。新しい年を迎えるにふさわしい、晴れやかな気持ちにさせてくれる、見目麗しく彩りも鮮やかな神社を紹介する。



三峯神社 埼玉県秩父市三峰298-1

狼を守護神とする神社で、狛犬の代わりに境内各所に狼の像が鎮座する。全体に漆が塗られ、柱頭などが極彩色に彩られている本殿は美麗。



寶登山神社

埼玉県秩父郡長瀬町長瀬1828

社殿は、江戸時代末から明治初頭に造り替えられた本殿、幣殿、拝殿からなる権現造り。欄間に施されている「二十四孝」などの彫刻が見事。



妙義神社

群馬県富岡市妙義町妙義6

本殿・拝殿をはじめとする壮麗な建造物は、江戸時代初期から中期にかけてのもので、本社(本殿・幣殿・拝殿)などが国の重要文化財に指定されている。



貫前神社

群馬県富岡市一ノ宮1535

上野国一の宮で旧社格は国幣中社。本殿・拝殿・楼門・回廊は、1635(寛永12)年に徳川家光が造営したもので、1698(元禄11)年に綱吉による修理で極彩色の漆が塗られ現在の華麗な姿となった。いずれも国指定重要文化財。

初詣スポットの人出ランキング・ベスト10

- | | | |
|------|-----------------|--------|
| 第1位 | 明治神宮(東京都渋谷区) | 約316万人 |
| 第2位 | 成田山新勝寺(千葉県成田市) | 約305万人 |
| 第3位 | 川崎大師 平間寺(川崎市) | 約302万人 |
| 第4位 | 浅草寺(東京都台東区) | 約283万人 |
| 第5位 | 鶴岡八幡宮(神奈川県鎌倉市) | 約250万人 |
| 第6位 | 住吉大社(大阪市) | 約236万人 |
| 第7位 | 熱田神宮(名古屋) | 約230万人 |
| 第8位 | 氷川神社(さいたま市) | 約215万人 |
| 第9位 | 太宰府天満宮(福岡県太宰府市) | 約200万人 |
| 第10位 | 生田神社(神戸市) | 約152万人 |

※順位は、各スポットの主催者調べによる2014年三が日の参拝者数をもとに作成。
(株)昭文社「MAPPLE観光ガイド」より



▲熱田神宮